

令和元年度

病害虫発生予察特殊報(第4号)

令和元年 11 月 29 日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：トビイロシワアリ（学名：*Tetramorium tsushimae* Emery）
作物名：キャベツ

1 発生経過

令和元年9月、県内のキャベツほ場において、定植後の苗が萎凋、枯死する被害が発生し、地際部にアリ類の寄生が確認された（図1、3）。被害株からアリ類を採取し、横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、本県ではこれまでキャベツへの加害が未確認のトビイロシワアリと同定された。

2 形態および生態

(1) 形態

働きアリの体長は3mm内外、体は暗褐～黒褐色、頭部に顕著な縦ジワを密にそなえ、胸部にもやや網目状の弱いシワを有する（図5、6）。羽アリは大型で、雌では体長7～7.5mm、胸部がよく発達している。雄の体長は6mm内外。

(2) 生態

本種は比較的乾燥した場所を好み、日当たりの良い裸地や草の根元、石の下や腐朽木の中に巣を作る。巣の入り口には土の堆積を作り、クレーター状になる（図2）。1つの巣に多数の女王アリがいることが多い。食性は雑食性だが、むしろ肉食性が強いといわれ、昆虫の生体や死体、植物の甘露、種子、樹液などを食べる。

3 被害および分布と寄主植物

(1) 被害

作物地際の茎や根の表皮を加害してくぼんだ加害痕を形成したり（図4）、根元に巣を作ることで作物の生育が抑制される。激しく食害を受けた株は萎凋、枯死する。

(2) 分布と寄主植物

本種は屋久島以北の日本各地に分布しており、これまでに福岡県を初め16都県で特殊報が発表されている。

本種による被害は、キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、バレイショ、ナス、カンキツ、アスター、ハボタン等で確認されている。

4 防除対策

令和元年11月29日現在、キャベツや他の作物において本種に対する農薬登録はないため、深耕やかん水による巣の破壊など物理的・耕種的防除に努める。

(写真)



図1 ほ場被害 (欠株、生育不良が見られる)



図2 キャベツ株元に作られた巣の入り口



図3 キャベツ地際部への加害



図4 キャベツの加害痕



図5 トビイロシワアリ (働きアリ)



図6 トビイロシワアリの頭部

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7cnt/f450002/>